

## H25 シカ年度 知床岬地区におけるエゾシカ捕獲事業案

表 1-2-1. 知床岬先端部における航空センサスカウント数とセンサス後の捕獲数など

	H19シカ年度	H20シカ年度	H21シカ年度	H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度
①カウント数	447	399	374	246	265	56
②センサス後捕獲数	99	72	158	57	216	32
①-②	348	327	216	189	49	<b>24</b>
(①-②)×1.2	418	392	259	227	59	29

### 1. 平成25シカ年度 捕獲事業内容案（知床岬地区）

昨シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は 3.4 頭/km<sup>2</sup> となり、目標としていた 5 頭/km<sup>2</sup> を達成した。H25 シカ年度は、低コストで低密度を維持するための捕獲手法の検討を行う。

現時点では、低密度下における自然増加率や他地域からの流入個体数が不明であるため、目標捕獲数や捕獲体制（人数等）については、航空カウント調査の結果により改めて検討する。

#### 1-1. 知床岬海岸段丘 厳冬期航空センサス

- 期間： 1～2 月
- 実施方法： セスナ機またはヘリコプターで知床岬上空を低空・低速で複数回旋回飛行し、海岸段丘上のシカ群を連続撮影。写真から頭数、性別等を判断する。
- 特記事項： ヘリコプターを用いて調査した場合でも飛行高度 300 m 以上ならば、シカカウントへの悪影響は少ないことが H24 シカ年度の調査で判明。今年度もヘリコプターを利用すれば、他の密度操作実験実施地区のヘリカウント調査も同時期に実施可能。

#### 1-2. 流氷期後 1 回船捕獲 + 捕獲後回収 1 回

- 期間： 4 月に 1 回（流氷明けが遅い場合、3 月実施は不可能なことがあるため）。日帰りでの捕獲。
- 人員規模： 15 人程度の中規模隊
- 実施方法： 仕切り柵を使った追い込み
- 死体回収： 捕獲後 1 回 10 名程度で回収作業を行う。
- 特記事項 捕獲前に航空センサスが実施可能。

表 1-2-2. 平成 25 シカ年度の知床岬地区における仕切り柵を用いたエゾシカ捕獲事業（案）

		8～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
		 仕切り柵 補修等※								
					 時化の激しい期間					
							 流水期			
								 猛禽繁殖期		
実施手法	モニタリング					 航空カウント1回 へり使用？				
	● 流水期後 1回 中規模捕獲(15人程度) + 捕獲後回収 1回 いずれも日帰り。								 海明け後 日帰り船 捕獲 1回	
									 死体回収約 10人	